

# 学術集会長プロローグ

## 「放射線看護の黎明と創設期から発展と進化に挑む」

### Challenging radiological nursing's development and progress from its beginning and establishment

松成 裕子

Yuko MATSUNARI

鹿児島大学医学部保健学科

School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University

---

第13回学術集会は、「放射線看護の黎明と創設期から発展と進化に挑む」をテーマに、2024年9月7日(土)・8日(日)の2日間、鹿児島大学稲盛会館キミ & ケサ メモリアルホールにて開催された。これまで放射線看護の道を切り拓いてこられた先人たちの知見と志を継承し、放射線看護専門看護師制度の創設以降に見えてきた新たな展望と課題について、参加者全体で活発な議論が交わされた。参加者数は201名、一般演題は38題、交流集会は9件に及び、多くの皆さまにご参加いただいた。学術集会の運営に際し、ご支援・ご協力を賜ったすべての方々に深く感謝申し上げるとともに、学術集会長としての振り返りを以下に記す。

#### 1. 私と放射線看護とのはじめ

大分県立看護科学大学の教員として臨床実習を指導していた際、病室に移動型X線装置が入ってきたため、学生の安全確保のために退室するよう指導した。すると学生から「『線源から2メートル離れていれば退室しなくてもよい』と教わりました」と返され、学部教育での既習知識を披露されたことに思わず赤面した<sup>1)</sup>。この経験が、自らの教育が与える影響の大きさ、そして放射線への理解の重要性を強く実感する契機となった。

#### 2. 広島大学における活動

広島大学在職中、広島県看護協会の小委員会にて、原爆投下後に被爆者の救護にあたった看護職の声を記録し、継承することを提案した。平成16年度には木村看護教育振興財団の研究助成を受け、委員会のメンバーとともにインタビュー映像をDVDとしてまとめる活動を実施した。研究者としては、災害時における看護の役割を明らかにするため、先行研究を広く検索し、災害看護の役割を概念化・明文化した。また、災害看護活動は、その時々、社会的要因や政策によって大きく左右されること、地域社会の変化に応じて災害のステージも変化し、それに応じた看護対応が求められることを、証言を通じて明らかにした<sup>2)</sup>。これらの成果は英文化<sup>3)</sup>し、世界に向けて発信した。

### 3. 長崎大学での活動

長崎大学においても、原爆投下直後に看護支援を行った看護職への聞き取りを行う研究として、科学研究費基盤C「長崎原爆投下時における看護職者の災害復興活動に関する研究」が採択された。被爆者への看護という極めて特異な経験について、被爆時に救護活動にあたった看護職に証言を依頼し、DVDとして保存・記録した。これらの証言を記述化・分析することで、戦後復興期における看護活動の体系化を目指し、災害看護の枠組みを構築した。また、国際学会での発表や原著論文<sup>4)</sup>としての公表を通じて、後世に残る資料とすることができた。さらに、山下俊一先生のご助言により、大学院に放射線看護専門看護師教育課程（26単位）を設置し、2010年度より教育を開始した。この日本初の試みにおいては、教育者が極めて限られていたため、当時大分県立看護科学大学学長であった草間朋子先生を招聘し、貴重なご指導をいただいた。このことは、学生にとっても私にとっても、放射線看護の本質に触れる有意義な時間となり、誇りであり自信にもなった。この教育課程の開設と同時に、弘前大学大学院博士前期課程にも被ばく医療コースが設置され、教育が開始された。長崎大学と弘前大学による合同会合の開催は、後に鹿児島大学を加えた三大学による、日本看護系大学における新たな看護専門分野創設への布石となった。

### 4. 鹿児島大学での活動

鹿児島大学では、2校目となる放射線看護専門看護師教育課程（26単位）を開設し、2012年度より教育を開始した。しかし、放射線看護の分野を日本看護系大学協議会に特定してもらい、日本看護協会から資格認定を得るためには、まず専門看護師の活動に対する学術的基盤の構築、すなわち学会設立が不可欠であることが明らかとなった。その結果、その年5月、羽田空港の会議室にて三大学が結集し、学会設立と学術集会の開催を決定した。記念すべき第1回学術集会は弘前大学にて、西沢義子学術集会長のもと開催された。その後、放射線看護分野が分野特定され、2017年4月より認定教育課程としての教育が開始された。さらに本学会は一般社団法人へと移行し、2022年12月には3名の放射線看護専門看護師が誕生した。こうした14年にわたる後進育成に尽力した成果なのか、第13回学術集会の開催という一つの集大成となる機会を与えられることになった。

### 5. 学会テーマと今後の活動

今、学術集会では、「放射線看護の黎明と創設期から発展と進化に挑む」をテーマに掲げた。まず、放射線看護の黎明期・創設期に尽力され、私に道を照らしてくださった先生方と、長崎大学大学院の第1期生による鼎談を通して、放射線看護の「現在」と「これから」を語っていただいた。また、本学の学生だけではなく、弘前大学の学生たちにも「がん看護CNSとしての役割の遂行と拡大の経験から放射線看護専門看護師への期待」を持って、ロールモデルを示し、導いてくださった三浦浅子先生の講話や、ETHOS装置を活用した新たな取り組み、原子力災害拠点病院で被ばく医療に取り組む医師、薬剤師として放射線看護の教育に尽力してくださった先生方の講演、そして「現場からの放射線看護の実践と連携」をテーマとしたシンポジウムを通して、実践と教育の橋渡しと、専門職種間の連携の重要性が明確となった。国立大学教員としての定年を控えた今、今後も放射線看護専門看護師の教育課程に携わり続けたいと考えているが、少子化やNP（診療看護師）の台頭により、高度実践看護師の養成教育は困難な状況にある。しかし、これまでに築いてきたネットワークと知見を活かし、次世代への教育と支援を継続し、放射線看護の発展に貢献していきたい。

## 引用文献

- 1) 太田勝正, 小西恵美子, 松成裕子. 倫理という視点から議論された福島第一原子力発電所事故. 日本看護倫理学会誌. 2013, 5(1). 77-78.
- 2) 松成裕子, 野澤幸江, 大原与志子, 他. 被爆直後の看護活動について—証言の DVD 保存による教材開発の試み—. 木村看護教育振興財団 看護研究集録. 2006, 13. 55-66.
- 3) Matsunari Y, Nozawa S, Sakata K, et al. Individual testimonies to nursing care after the atomic bombing of Hiroshima in 1945. International Nursing Review. 2008, 55(1). 13-19.
- 4) Matsunari Y, Nakao R. Individual testimonies to nursing care after the atomic bombing of Nagasaki in 1945. Prehospital and Disaster Medicine. 2013, 28(2). 1-5.